



西前小だより

横浜市立西前小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishimae/>



くわばら くわばら

校長 末松 隆一郎

梅雨真っ直中です。この時期はどんよりと曇り、シトシト雨が続く・・・というイメージですが、最近では晴れば猛暑、降れば豪雨と、連日ニュースでも、日本各地の豪雨、落雷、ヒョウの被害等々が報じられない日はないように感じます。走り梅雨、青時雨（あおしぐれ）、五月雨（さみだれ）・・・、古人（いにしえびと）はこの時期の雨にも様々な名前をつけ、うっとうしい中にも四季の風情を感じて生活していたようですが、近年は少し風情の域を出た天候の激しさを感じます。湿った空気の向こうには、輝く夏の太陽が待っています。子どもたちには安全に気をつけ、元気に過ごし、楽しい夏休みを迎えてほしいと思います。

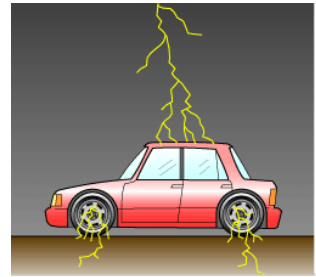
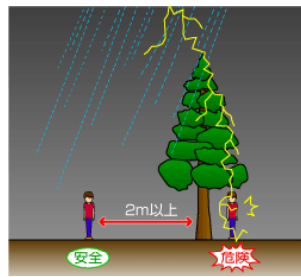
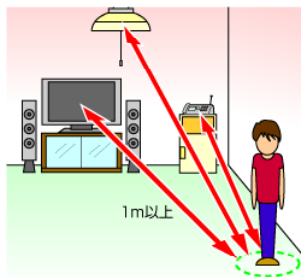
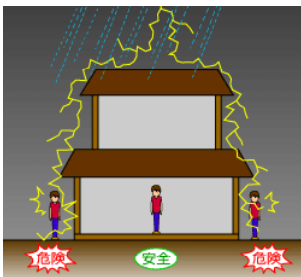
「くわばらくわばら・・・」

私が子どもの頃、激しい夕立がくると祖母が空を見上げてこの言葉を言っていたのを覚えています。また、近所で事故や不幸な出来事が起こった時なども、会話の最後に「おー、くわばわくわばら」と言っていました。私は魔よけの呪文として記憶しつつも、聞くこともなくなりいつしか脳裏から消えていった言葉なのですが、調べてみると、もともとは雷除けの呪文だったそうです。雷がゴロゴロ鳴っている時にこの言葉を空に向かって唱えると、そこには雷が落ちない・・・、その由来の一つは、学問の神様で有名な菅原道真に関係していました。

菅原道真は、平安時代の貴族で、優秀な政治家であるとともに学者であり漢詩・和歌にも優れた才能を発揮していた才人でした。しかし、そんな道真をうっとうしく思う時の為政者の策略にあい、九州の大宰府へと左遷され、失意の中で亡くなってしまいました。道真の死後、京の都では道真の左遷に関わった貴族が次々と落雷死などの非業な最期を遂げ、雷が都に落ちるたびに、人々は道真が雷神となって復讐していると噂しあいました。ところが道真の領地である「桑原」には、そこを避けるように雷が落ちなかったそうです。雷鳴が聞こえると都の人々は「ここはあなたの領地、桑原ですよ。雷を落とさないでください。」という意味で空に向かって「くわばらくわばら」と唱えたという言い伝えから、雷除け、そして厄除けの呪文の言葉として残ったとのこと。



先日、西前小上空でも雷鳴が轟き、教室から悲鳴が聞こえました。そして激しい雨。幸い下校の時間帯には小止みになりましたが、雨雲のレーダー画像の監視、下校時間変更、それを知るメール配信の準備等々、校内でも準備を整えていました。この時期は、一年でも雷が一番発生しやすい時期です。「くわばらくわばら」の呪文だけでは心配なので、落雷から身を守るポイントを記します。学校でも指導しますが、ご家庭でも是非お子さんと確認し合って、豪雨とも合わせて、都市型災害に備えてほしいと思います。



- 家屋の軒先で雨宿りをしたり、家内にいたりしても壁や柱の側は危険です。また、周囲の木より高い木の幹に寄り添い雨宿りすることも危険です。車の中や電車は、比較的 안전한空間です。
- 近くに避難する場所がない場合は、低い場所を探してしゃがみこむなど、できるだけ姿勢を低くします。または、大きな建物など雨をしのげる場所で、雷が遠ざかるのを待ちましょう。(子ども 110 番の家・官公舎・駅など)